

月 1!!Global☆

—自由な発想を from YJK—

代表者 弘中眞子（経済B 3年）
構成員 児玉聖治（工学B 3年）和田聖菜（経済B 3年）山本祐司（工学B 4年）
宇畑豪志（経済B 3年）平野和（人文B 2年）
白土奈穂子（理学B 3年）児玉龍之介（理学B 3年）
江川理菜（経済B 3年）中川幸亮（経済B 3年）
板谷朋幸（工学B 3年）持溝桂介（工学B 3年）
喜納一貴（工学B 4年）河村道雄（工学B 4年）
秋田真央（工学B 3年）孫鳳基（経済B 2年）
BYUN JI HWAN（工学B 3年）渡邊圭祐（工学B 2年）
稲葉哲也（理学B 3年）吉松琢弥（工学B 2年）
佐倉航（工学B 4年）溜和也（経済B 3年）
兼広明生（経済B 3年）井上翔太（理学B 3年）

1. 小型イベントの状況

5月12日、6月16日、6月23日、7月17日、に小型プログラムを開催した。

1か月に1・2回しか開催できず、前期の小型プログラムはあまりうまく作用していなかったと言える。

うまく作用しなかった原因としては、小型イベントの主催者が全て代表者と副代表者のみであったことがあげられる。2人ともが参加できない日には小型イベントを開催することができなかった。後期にはこのシステムを改善していく必要がある。

2. 中型イベントの状況

表1 中型イベントの状況

イベント月	行事	参加人数	内留学生	担当
4月	Welcome Party	115人	13人	弘中
5月	運動会	61人	10人	山本
6月	たこ焼き作り	48人	13人	安藤
8月	山口市散策	27人	7人	平野

表1より、中型イベントは毎月異なる担当者によって運営されていることが分かる。4月は今年度初めてであるということから、非常に人数が増えた。8月の山口散策では、移動手段の関係で参加者の人数に制限を設けたため、他の月よりも参加者が少なくなっている。

前期の反省点としては、前期には留学生の企画者を募集することができなかった。9月のサバイバルキャンプで、留学生側から企画をやってみたいとの声をもらったので、後期には留学生の企画者を入れていく。



運動会の様子

3. 大型イベント(夏)の結果

大型イベントではサバイバルキャンプを行った。7月10日からスタッフの募集を始め、計14名で企画運営をし、企画の際には週に1,2回程度集まり会議を行った。工学部の学生もいたため、宇部キャンパスの副代表と密に連絡を取り合い、宇部キャンパスのスタッフたちとの情報共有を行った。夏休みに入ると週に1回程度、スタッフで開催場所である「徳地青少年自然の家」まで行き下見し、キャンプの内容を決定していった。

当日は9月19日,20日で、「徳地青少年自然の家」で行なった。参加者は合計22名(留学生4名,スタッフは含まない)であった。大型イベントなので留学生を集めたかったが、9月は留学生が帰国したり,新しい留学生が来日したり,と入れ替わりの時期だったので人数が集まらなかった。今回のサバイバルキャンプは金曜日と土曜日であったので,社会人の外国人の方が参加できなかった。

サバイバルキャンプのテーマは絆。内容としては,初日にはグループ対抗とし,協力しなければクリアできないというようなミッションを用意した。また,チームごとにTシャツを用意し,チームごとにデザインしてもらった。次の日にはチームのプレゼンテーションを行い,Tシャツのコンセプトやチームごとの絆を周りに証明する時間を設けた。



プレゼンテーションの準備の様子



チームプレゼンテーションの様子

4. 後期に向けて

後期には,前期の反省箇所を改善していきたい。そのためにはまず,小型イベントを充実させていきたい。小型イベントの開催者を代表と副代表の2人に絞るのではなく,その他の構成員にも担当してもらおう。また,9月から留学生が入れ替わったため,小型イベントで月1!!Global☆に慣れてもらうことが,月1!!Global☆に留学生を増やしていくことにつながる,と考える。後期にも大型イベントを予定しているため,第2回大型イベントの企画者も募集していく。また,そこには留学生も含めていきたい。